

**\*光電子増倍管 (フォトマル) 2本収蔵**

アーカイブ新聞第774号に書いた「Φ165、全天カメラ用平面鏡」が入っていた段ボール箱に、この平面鏡の他にフォトマル (光電子増倍管) 2本、ニコンFモータードライブカメラ (レンズなし)、モータードライブコントローラーらしきものが入っていた。今回は、2本の光電子増倍管 (フォトマル) (写真1、2) について書き留めておきたい。

- 1) 浜松フォトニクス製 光電子増倍管 R3 1本 (写真1)



写真1 浜松フォトニクス製 光電子増倍管 R3

- 2) Toshiba製 PM55 1本(写真2)



写真2 Toshiba製 PM55

筆者が光電子増倍管を使って変光星の3色測光をやっていた頃は、光電子増倍管は馴染みのものであった。筆者が使っていたのは「IP21」という非常に古いタイプのものであった。また、真空紫外領域分光実験室にいた頃も光電子増倍管はよく使った。現在、光電デバイスはCCD、C-MOSなどに取って代られ、観測や実験にこのような光電子増倍管を使っている人はもはやいないであろう。

スーパーカミオカンデのニュートリノ検出には巨大な光電子増倍管がとんでもない数が使われている。50,000トンの超純水を蓄えた直径40m、深さ41.4mのタンクと、その内部

には 11,200 本の巨大な光電子増倍管（写真 3）が配置されている。写真 3 は東京大学総合図書館に展示されていた巨大な光電子増倍管である。

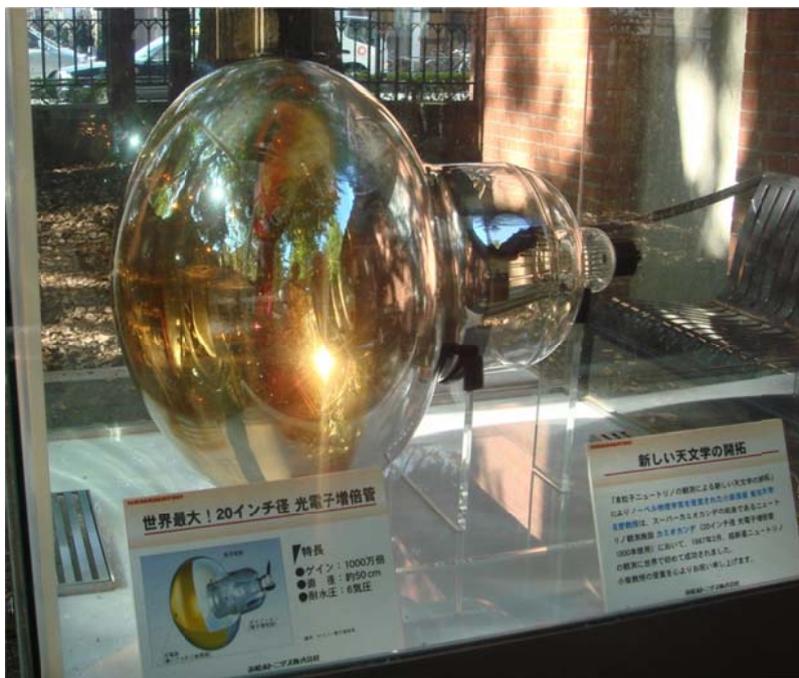


写真 3 巨大な光電子増倍管

今回収集した、これらの光電子増倍管が入っていた容器はどちらも浜松フォトニクスの容器（写真 4）であった。



写真 4 光電子増倍管の容器

これらアーカイブ新聞の記事にお気づきのことがあれば、編集者中桐にご連絡いただければ幸いです。中桐のメールアドレスは、[arcnaoj@pub.mtk.nao.ac.jp](mailto:arcnaoj@pub.mtk.nao.ac.jp)